

健康科学研究科 病院前救急医療学専攻 修士課程

健康科学研究科 健康科学専攻 病院前救急医療学分野 博士課程

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各研究科・専攻は、それぞれの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、専門領域ごとの特色を活かした教育方法による教育・研究を行っています。教育方法の特色ある工夫としては、入学生に社会人が多いことを活かしたフィールドワーク研究を推奨し、研究の成果を社会に還元できることが挙げられます。

【教育方法】

医療専門職として求められる医療教育や専門分野における基礎実習を行った後、臨床での実践を通して、専門分野における指導者として求められる高度な知識や技術、能力を身につけさせるとともに、医療専門職としての倫理観を養う教育を展開しています。また、専門分野の学会で最新の知見に触れ、そこでの研究発表を視野に入れた学位論文の作成を指導しています。

【教育の特色ある工夫】

- ・病院前救急医療学の研究者として自立して研究活動を行い、チーム医療において他職種との連携を図ることができ、救急医療サービスのために貢献できるリーダーシップや病院前救急医療学の学問体系を積極的に推し進めることによって、将来的には国際的・学際的な指導力、教育力を発揮できる人材の育成を行っています。
- ・「災害医学特論」では、国際的な視野に立って物事を見、考える力を養成するためチェコスロバキア共和国で毎年開催されるメディカルラリーに参加して、世界の救急医療関係者と競技を通じて交流を図り、臨床能力の向上に繋げています。
- ・「水難救助システム特論」では、我が国における水難救助システムを科学的手法によって解析します。また、水難から生還するための要素をさまざまな事故例から顕在化させ、より合理的な水面救助の標準化のあり方について学びを深めています。

【健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）教育の特色ある工夫】

- ・健康科学専攻の中には修士課程の7専攻に対応した七つの分野（鍼灸学、柔道整復学、健康栄養学、言語聴覚学、作業療法学、理学療法学、病院前救急医療学）があり、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性が保たれています。

- ・人を対象にした研究が主になるので、研究倫理全般と臨床研究の倫理を理解・修得するためにeラーニングを用いて教育を行っています。
- ・研究自体は各院生が指導教員と相談・議論しながら進めますが、多様な医療職種の院生が共に学ぶ本専攻では、専門の枠を越えて他職種を理解し連携力を身につけることで、健康科学の広い視野に立って臨床や教育・研究の場で活躍できる人材を育成できると考えています。